

35 救急クイズ こんなときどうする？

ケガや病気の人を発見したときに実施する応急手当として正しい方法、間違った方法をクイズ形式で楽しく学びます。



応急手当についての正しい方法をクイズ形式で楽しく学びます。

小学校低学年
 低
 演習
 屋内
 20分

時間軸

実施内容

対象人数★5～40人（1グループ5～6人）

1 導入（5分）

- ①ケガや病気の人を発見したときに、近くににいる人が正しい応急手当を行うことの重要性を話します。具体的には、以下のとおりです。
「ケガや病気になるた時、すぐに家族や大人に知らせますが、もし外でケガなどをした時、自分で間違った手当をすると、よけいに具合（症状）がひどくなる場合があります。今から救急のクイズをしながら、こんな時どうしたらいいのか考えてみましょう。」
- ②資料35-1を配付します。指導者が問題を読みながら該当する箇所に○を付けて回答していくことを説明します。
- ③グループ分けして、みんなで話し合いながら回答を考えるなどの工夫をしてもよいでしょう。



正しい応急手当が命を救うこともあります

2 クイズ実施（10分）

- ①各問題について指導者が読み上げながら、資料35-1の該当箇所に○を付けてもらいます。
- ②記憶が新しいうちに正解が聞けるように、1問ずつ答えあわせを行います。問題の解説は資料35-2（指導者用）を読み上げます。



目で観察し合っていて、楽しく実施しましょう

3 まとめ（5分）

- ①資料35.2（指導者用）の一番下にある「総括」を読み上げます。
- ②再度、応急手当の重要性について説明し、実際にケガや病気の人を発見した場合には、近くの大人に知らせることを説明します。
- ③帰ったら家の人にも教えてあげるよう指導しましょう。（資料35-2（指導者用）を配付して持ち帰ってもらってもよいでしょう。）

指導ポイント

問題数を多くこなすよりも、しっかりと考える時間を作り、少ないケースをしっかりと記憶させるほうがいざというときに役立ちます。

自主防災組織の関わり方

実際の事例（経緯がある方がいる場合）の紹介をお願いします。

準備するもの（目安）

準備品	数	備考
□資料「きゅうきゅうクイズ！こんなときどうする？」	人数分	資料35-1（配付用）
□資料「きゅうきゅうクイズ！こんなときどうする？」（解説）	1	資料35-2（指導者用）

家庭への持ち帰り

救急クイズ資料を持ち帰り家庭内で話してもらいように指導してください。

このメニューに関する+αの知識

- ①救急といえは、「命にかかわる応急手当」のイメージが強いですが、すぐには命に關わらないケガや病気で最も初対応次第で後で大きく影響し、時には命の危険を伴う状況になることがあります。正しい応急手当とともに「してはいけないこと」を覚えておくことが必要です。
- ②大災害の状況下で応急手当を実施することは、平常時の手当以上に重要で、平常時には病院に着くまでの間や救急車が到着するまでの間、ケガや病気をした人を保護するために応急手当を実施しますが、大災害時には長時間治療を受けられない場合があります。学習した応急手当の知識が大災害でも活用できるように必要な資機材などを備えておきましょう。

ひと工夫

- ①班分けして、回答を班ごとに決めさせると皆で考えることができ、競争形式になるため集中力が高まります。
- ②実際に包帯やタオル、ラップ等を準備して、実演（または体験）をすると効果が高まります。

きゅうきゅうクイズ！こんなときどうする？

() のなかに、○×△でこたえを書こう。

問1. お友だちのたろう君がころんでしまって血がでています。こんなときどうする？



1. 手でおさえてあげる

()



2. 手でさすってあげる

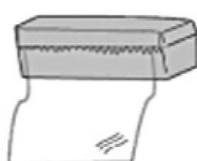
()



3. タオルでおさえてあげる

()

問2. お友だちのはな子さんもケガをしてしまいました。この中で役に立ちそうなものをえらんでね。



1. ラップ

()



2. ティッシュ

()



3. しんぶんし

()

問3. ナナちゃんのはな血を出してないています。こんなときどうする？



1. はなをかむ

()



2. 上をむく

()



3. 下むきにおさえる

()

問4. ユキちゃんがストーブでやけどをしました！こんなときどうする？



1. くすりをぬる

()



2. 水でひやす

()



3. 氷でひやす

()

問5. ジロウ君があそんでいてボールが足にあたっていたがっています。こんなときどうする？



1. カイロであたためる

()



2. ひやす

()



3. 足をまげのぼしする

()

「救急クイズ！こんな時どうする？」解説

問1 解説【正解：3】

出血したときは、傷口の上を直接押さえて血をとめます。感染などの危険性があるので、そのまま直接他人の傷口に触れてはいけません。できるだけ清潔なタオルなどで傷口をしっかり押さえるというのが正解です。ビニール袋があれば手をつこんでそのまま傷口を押さえます。そうすれば血に触らずに血を止めることができます。また、むやみにさすったり動かしたりすると出血がひどくなる場合もあるので、気をつけないといけません。

問2 解説【正解：1】

災害時など身のまわりにガーゼがないときには、あるものを活用して血をとめなければなりません。ラップ等を傷口にしっかり巻くと止血効果があり、ばい菌も傷口に入りにくくなります。実際に巻いて体験してみましょう。ラップがなければ、ティッシュを何枚か重ねて使ってもよいでしょう（血液が乾いて、はがすときに再度出血することがありますので、答えは△とします）。

問3 解説【正解：3】

鼻血の場合には、鼻をかんだりするとよけいに出血をさせることがあります。上を向くと血が食道のほうに流れて飲み込んで吐いたりすることがありますので、下を向き、鼻の付け根付近を軽く指で押さえて出血が止まるのを待ちます。鼻にガーゼを無理に入れると出血させることがあります。

問4 解説【正解：2】

やけどでは冷やすことが基本となります。流したままの水道水で10～15分ほど患部を冷やします。胴体のやけどのときは、全身を冷やしすぎることになるので注意が必要です。また、氷やアイスパックなどで冷やしすぎると逆にやけどしたところが悪くなることがあるのでやめましょう。きず薬は、かえって治りが悪くなることもあるので塗らないようにします。

問5 解説【正解：2】

打撲も基本は安静にして冷やすことです。足を曲げのばしするように動かすと痛みがひどくなったり腫れたりするのでやめましょう。頭部の打撲の場合には、重大な危険が潜んでいる場合もありますので、吐き気があったり、吐いたりしたときなどはすぐに病院で受診しましょう。

総括

ここでは基本な事柄について解説しましたが、いずれの場合も子どもたちだけで解決するのではなく、ケガなどをした場合は学校の先生や大人に知らせるようにしましょう。各小学校には保健室があるので、校内でケガなどをした場合の利用についても考えましょう。